

科目名	立体造形法				
授業形態	講義	学年	2		
開講時期	2022年度 前期	単位数	2		
担当教員	沈 得正				
内容および計画	<p>造形とは、様々な物質を媒介として、かたちのあるものを作り出すことを意味する。デザインの分野において、立体造形は「形態、材料、加工技術、構成、尺度」の「造形要素」からなり、それによって造形物の「感性表現や物理表現」などの「機能要素」が変わってくる。本講義ではデザインの重要な要素である造形について、論理的に理解するとともに、造形物に対する感性的な面での理解を深めることを目的とする。具体的には、造形心理と造形表現についての基礎を学ぶとともに、実際のプロダクト、建築などの事例から見たそれらの「造形要素」から「機能要素」との関連性について理解する。</p> <p>授業は講義中心に演習を行いながら、「造形要素と機能要素」の関係を体得させることを目的として以下のよ うな授業内容を計画している。また、ディスカッションすることで授業内容の理解を深める。</p>				
1	①講義の進め方と「立体造形」について ②基本形態から学ぶ				
2	美の法則と立体造形				
3	面の材料／紙を用いた半立体造形				
4	面の材料／紙を用いた半立体造形：ポップアップカードの制作を通じて美の法則を生かした造形方法の練習				
5	①ポップアップカード作品発表とディスカッション並びに講評 ②面の材料／紙を用いた立体造形：立方体の制作練習				
6	面の材料／紙を用いた立体造形：立方体の制作練習				
7	面の材料／紙を用いた立体造形：立方体の分割の制作を通じて美の法則を生かした造形方法の練習				
8	同上				
9	①作品発表とディスカッション並びに講評 ②線を用いた立体造形について：「引っ張り材」「押し材」について				
10	線の材料／棒・糸を用いた立体造形：テンションを活かした立体造形の制作を通じて「引っ張り材」「押し材」への理解を深める				
11	同上				
12	①作品発表とディスカッション並びに講評 ②造形物に対する心理的効果・生理的効果・物理的効果について考える				
13	体の材料／紙粘土を用いた立体造形：操作スイッチの制作を通して機能要素を生かす造形の基礎を身につける				
14	同上				
15	作品発表とディスカッション並びに講評				
教科書					
	タイトル	著者名	出版社	ISBN	発行年
適宜にテキスト配布					
参考書	1. 高山正喜久『立体構成の基礎』美術出版社 2. ガイル・グリート・ハナ（今竹翠訳）『エレメンツ・オブ・デザイン』美術出版社 3. 小林重順『造形構成の心理』ダヴィッド社				
成績評価					
	評価方法			割合(%)	

作品についての完成度（きれいさ、表現力）	80
授業の参加態度、課題への取り組み態度	20
欠席（－５点）、遅刻（－２点）、早退（－２点）は、減点します。５回以上の欠席は５回以上の欠席は履修放棄とみなします。問題のある授業態度（居眠り等）は、減点の対象とします。	
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 造形物をデザイン要素として論理的に観察することができる。</li> <li>2. 造形物の持つ造形心理について理解することができる。</li> <li>3. 造形する際に必要な発想方法について理解することができる。</li> </ol>
先修条件	
実務経験	
その他	